

12. 甲状腺癌骨転移の骨シンチグラフィについて

佛坂 博正 富口 静二 西東 龍一
伊豆永浩志 広田 嘉久 高橋 睦正

(熊大・放)

骨シンチグラフィは、一般に悪性腫瘍骨転移の早期発見に有用とされているが、甲状腺癌の骨転移に関しては、Castillo らの 60% が検出されなかったとする報告もあり、その検出能に疑問が持たれている。

組織学的に確認された甲状腺癌 24 例に骨シンチを行った。骨転移の確認は、骨 X 線撮影、 ^{131}I による全身スキャン、一部生検によった。

濾胞癌 4 例 (44.4%)、乳頭癌 1 例 (7.7%) に 11 か所の骨転移があった。骨シンチでは、2 か所 (18.2%) に異常所見を認めることができなかったが、残りの 9 か所 (81.8%) については、RI 集積の強い Hotlesion として 2 か所、中心は RI 集積が低く周囲に高い Ring 状集積として 7 か所が検出された。甲状腺癌骨転移の骨シンチ所見として、Ring 状集積がみられることが多かった。その他、放射線外照射や ^{131}I 多量療法が奏効しなかった骨盤骨転移 2 例に Embolization を行い、疼痛軽減効果が得られたので、文献的考察を加え報告した。

13. 乳癌における $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Rhenium Colloid Lymphography について

○城野 和雄 島袋 国定 坂田 博道
中條 政敏 篠原 慎治 (鹿大・放)
金子 洋一 西 満正 (同・一外)
岡田 淳徳 禰久 豊嗣 (同・中放)

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Rhenium Colloid を乳癌 10 例、良性乳腺腫瘍 3 例の腫瘍周囲にあるいは健常側乳房 (計 21 部位) に注入し、所属リンパ節の描出を試み、注入部位や腋窩リンパ節転移の有無・程度がリンパ節の描出にどのような影響を与えるか検討した。転移の程度は、郭清された腋窩リンパ節のうち、転移が半数以下のものを転移軽度、過半数のものを転移高度とした。1. 乳房内側注入では、リンパ節群の描出率は、腋窩 7/8 (88%)、傍胸骨 7/8 (88%)、鎖骨窩 2/8 (25%) で、外側注入では、腋窩 12/13 (92%)、鎖骨窩 8/13 (62%)、傍胸骨 0/13 (0%) であった。2. 腋窩リンパ節転移なしおよび転移軽度のものでは、腋窩リンパ節の描出率はいずれも 9/9、6/6 (100%) で、鎖骨窩リンパ節の描出率は 4/9 (44%)、5/6 (83%) で比

較的高くなったが、転移高度のものでは、腋窩リンパ節は 2/3 (67%) に描出されたが、鎖骨窩リンパ節は 3 例とも描出されなかった。

14. $^{81\text{m}}\text{Kr}$ ガスによる肺換気能検査

涌田 裕司 杜若 陽祐 星 博昭
陣之内正史 渡辺 克司 (宮崎医大・放)

$^{81\text{m}}\text{Kr}$ ガスによる肺換気能検査の有用性に関して検討した。(1) 吸入方法の違いによる肺換気シンチグラムの比較; a. 安静時呼吸法, b. 深呼吸後深吸気時の連続吸入法および c. 深呼吸後深吸気時のボーラス吸入法の三者を行ったが、①安静呼吸法 (a) と強制呼吸法 (b および c) を併用することにより換気欠損の可逆性の有無を判定することが可能であり、② c. では下肺野への RI 分布が少なくなる傾向にあるが末梢気道の閉塞性病変の描出に有用である。その結果、三者の併用が望ましいと考えた。(2) 換気シンチグラムと血流シンチグラム ($^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MAA) の欠損像の比較では 20 例中 6 例に mismatching defect を認めた。(3) RI カウント人数より算出した 1 秒率はスパイロによる実測値と高度の相関を示した。

15. 心臓以外の部位における RI-angiography (RI-angio と略) の有用性について

松浦 隆志 仲山 親 中田 肇
塚本 良樹 木村 龍也 構 溝雄
(産業医大・放)

RI-angio および血液プールシンチは、シンチレーションカメラの解像力の向上および連続撮影が可能になったことにより血管性病変の検出には有効な手段である。今回、われわれは大動脈瘤や閉塞性血管病変などの心臓以外の病変について、RI-angio、血液プールシンチ、造影剤による血管造影、CT、超音波検査および手術所見と対比し RI-angio の有用性を検討し報告した。

対象症例は 54 例で、のべ 65 回の検査を行った。対象年齢は比較的高齢者に多く、性差は認めなかった。54 例中 52 例に診断上有用であり、34 例は RI-angio のみで診断可能であった。

造影剤による血管造影を行った閉塞性病変との比較でも RI-angio は有用で、側副血行路の診断もある程度可